

一般検査 フォトサーベイ

大分県臨床衛生検査技師会
一般検査研究班 班長 山下 広光

参加状況

(過去5回の参加施設数推移)

	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回
参加施設数	88	82	78	90	91

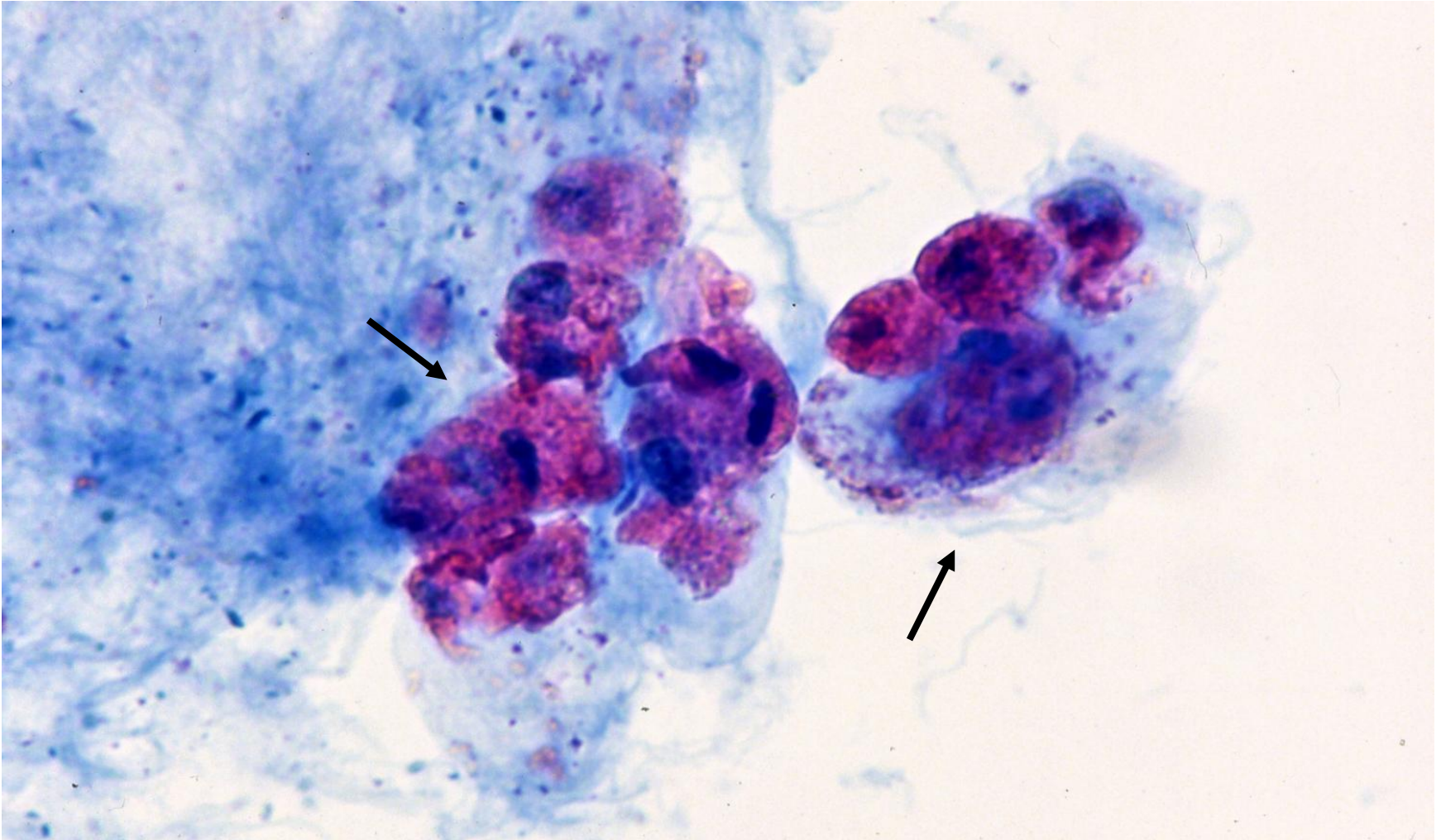
設問46

症例:70歳 男性 腰背部痛を主訴に来院

検体:自然尿

検査所見:PH6.0 蛋白(2+)、糖(-)、潜血(+)

写真:S染色 400倍



設問 46	回答		回答数	回答率
	006	尿細管上皮細胞	73	80.2%
	012	大食細胞(マクロファージ)	5	5.5%
	005	移行上皮細胞	4	4.4%
	013	異型細胞	3	3.3%
	104	上皮円柱	2	2.2%
	003	白血球	2	2.2%
	014	分類不能細胞	1	1.1%
	010	細胞質内封入体細胞	1	1.1%

正 解：尿細管上皮細胞 (006) 正解率：80.2%

解 説：尿細管上皮細胞は、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などの腎実質疾患例に高率に認められ糖尿病性腎症や黄疸を伴う肝炎の患者尿からも出現することがある。また健常人にも少数出現する。形態的特徴としては細胞質の辺縁構造はケバケバ、ギザギザまたは凹凸していることが多く、細胞質表面構造は不規則な顆粒が集まったような顆粒状を示し、S 染色での染色性は最良で赤紫色に染め出される。

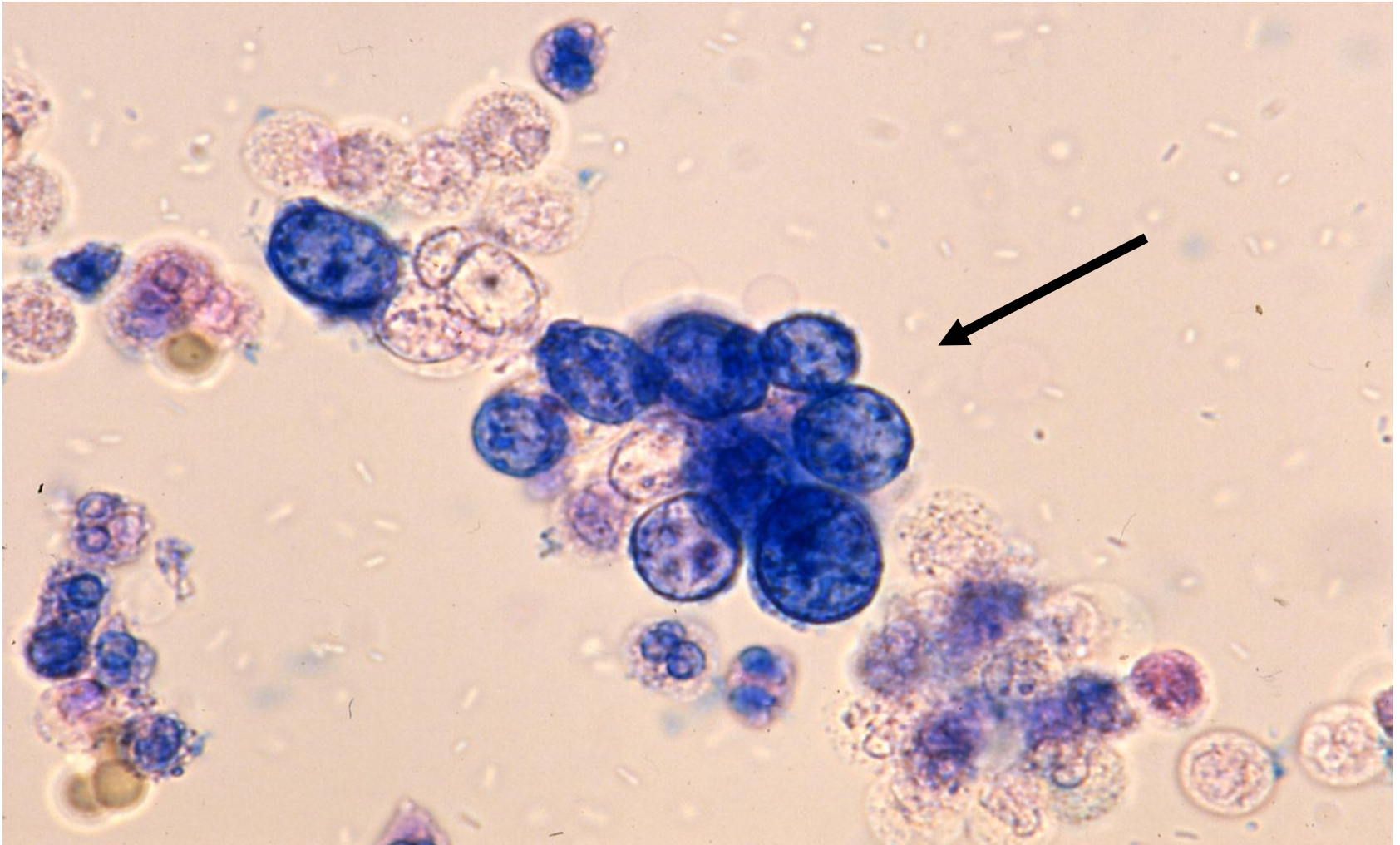
設問47

症例:79歳 男性 血尿を主訴に来院

検体:自然尿

検査所見:PH6.0 蛋白(+)、糖(-)、潜血(2+)

写真:S染色 400倍



設問 47	回答		回答数	回答率
	013	異型細胞	64	70.3%
	014	分類不能細胞	5	5.5%
	012	大食細胞(マクロファージ)	5	5.5%
	011	核内封入体細胞	5	5.5%
	606	異型細胞	3	3.3%
	003	白血球	3	3.3%
	010	細胞質内封入体細胞	2	2.2%
	005	移行上皮細胞	2	2.2%
	603	単球	1	1.1%
	009	卵円形脂肪体	1	1.1%

正 解：異型細胞(013) 正解率：70.3%

解 説：尿沈渣中に異型性を示す細胞が認められたからといって、それが必ずしも悪性細胞であるとはかぎらない。悪性細胞を検出するチェックポイントは、核の大きさ、クロマチンの増量、核形不整などがある。今回の標本には、クロマチン増量、N/C 比大の細胞の小集塊を認めます。この症例は前立腺ガンの患者さんでした。

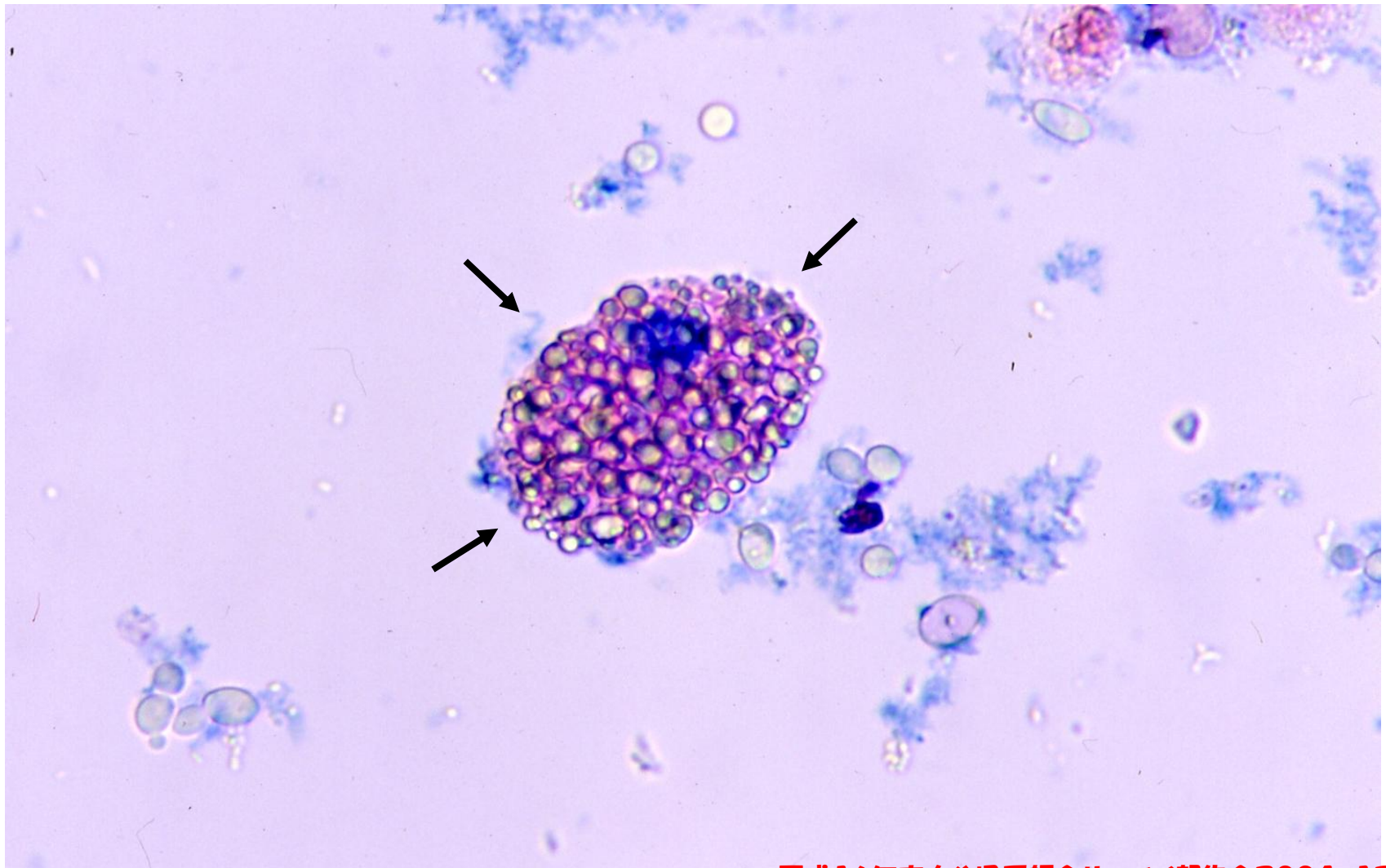
設問48

症例:85歳 男性 全身倦怠感及び血尿を主訴に来院

検体:自然尿

検査所見:PH6.0 蛋白(3+)、糖(-)、潜血(2+)

写真:S染色 400倍



設問 48	回答		回答数	回答率
	009	卵円形脂肪体	69	75.8%
	008	脂肪顆粒細胞	10	11.0%
	107	脂肪円柱	5	5.5%
	401	脂肪球	3	3.3%
	010	細胞質内封入体細胞	2	2.2%
	405	ヘモジデリン顆粒	1	1.1%
	012	大食細胞(マクロファージ)	1	1.1%

正 解：卵円形脂肪体 (009) 正解率：75.8%

解 説：尿細管上皮細胞由来の脂肪顆粒細胞を特に卵円形脂肪体として区別されており本細胞はとくにネフローゼ症候群に効率的に認められ、本症診断基準の一つに含まれている。尿細管上皮由来の卵円形脂肪体とそれ以外の脂肪顆粒細胞とは形態学的に区別が付きにくい背景等からある程度の鑑別は可能である。

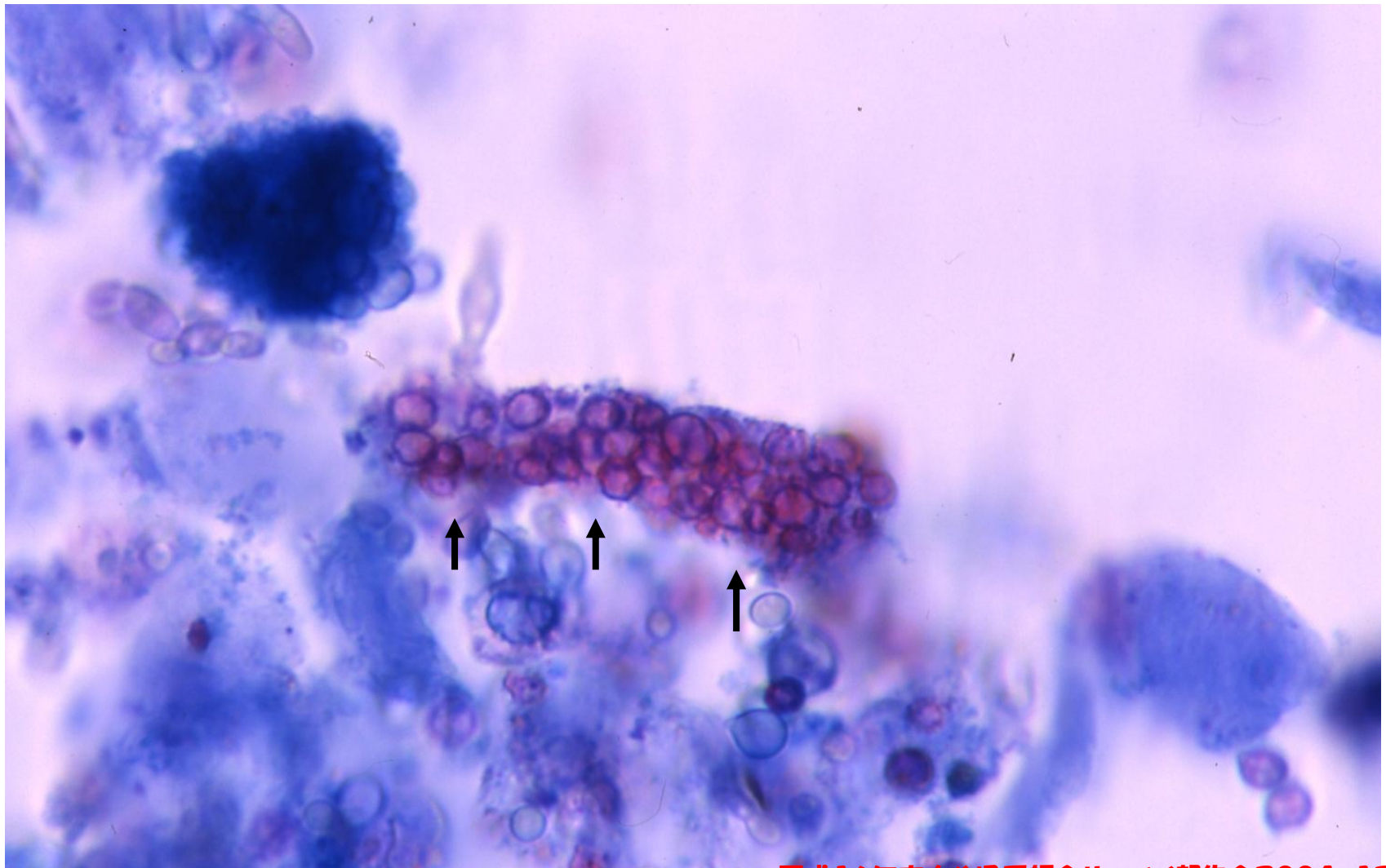
設問49

症例:76歳 女性 肉眼的血尿を主訴に来院

検体:自然尿

検査所見:PH6.5 蛋白(2+)、糖(-)、潜血(3+)

写真:S染色 400倍



設問 49	回答		回答数	回答率
	102	赤血球円柱	88	96.7%
	107	脂肪円柱	2	2.2%
	105	顆粒円柱	1	1.1%

正 解：赤血球円柱（102） 正解率：96.7%

解 説：赤血球が基質内に取り込まれた円柱である。円柱内の赤血球の形態は、通常見られるヘモグロビンを含有した円盤状や球状をしめすこともあるが、多くは脱ヘモグロビン状を示す。赤血球円柱はネフロンに出血のあることを意味し、臨床的には急性糸球体腎炎、膜性増殖性腎炎および IgA 腎症などの腎性出血を伴う患者尿に認められる。

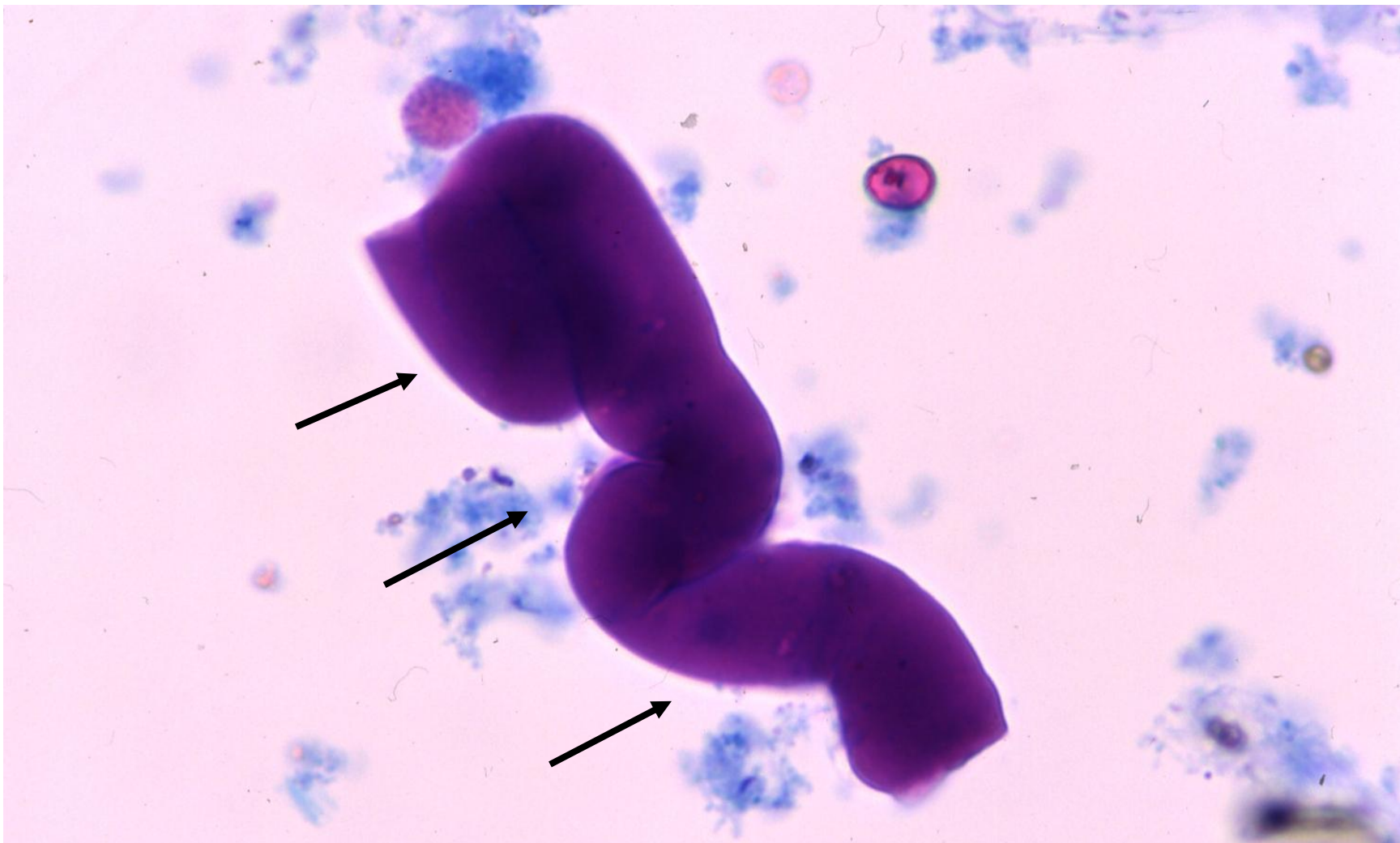
設問50

症例:68歳 男性 住民検診にて血尿を指摘され来院

検体:自然尿

検査所見:PH6.0、蛋白(3+)、糖(-)、潜血(2+)

写真:S染色 400倍



設問 50	回答	回答数	回答率
	106 ろう様円柱	91	100.0%

正 解：ろう様円柱（106） 正解率：100%

解 説：尿細管腔の長期閉塞により円柱内の細胞成分や顆粒成分の変性が進行し、均質状となって出現したものと考えられている。ろう様円柱内に細胞成分が3個以上封入されている場合はろう様円柱と細胞円柱の両者を報告する。ろう様円柱は主としてネフローゼ症候群、腎不全および腎炎末期などの重篤な腎疾患にみられる。

設問51

症例:43歳 女性 残尿感を主訴に来院

検体:自然尿

検査所見:PH7.0、蛋白(±)、糖(-)、潜血(±)

写真:無染色 400倍



設問 51	回答		回答数	回答率
	303	トリコモナス原虫	89	97.8%
	403	性腺分泌物	1	1.1%
	014	分類不能細胞	1	1.1%

正 解：トリコモナス原虫（303） 正解率：97.8%

解 説：活発に運動している場合には確認しやすいが、活動を停止している場合は白血球に類似しているため鑑別を要する。光沢のある淡い灰白色を呈し、鞭毛の確認などから鑑別がつく。白血球に比べやや厚く大小不同を呈する。

《まとめ》

- 今回のサーベイ参加施設は前回とほぼ同じ91施設の参加でした。
- 鑑別に苦慮する尿細管上皮やあまり経験することの無い異型細胞等の正解率が低い傾向にあった。
- 尿沈渣を鏡顕時で最も大切なことは、色々な副所見を参考にするということと思われます。
- 定性結果は特に重要で、また年齢、性別、臨床診断も重要であると考えます。
- また一般検査研究班としても今後、鏡顕実習、症例検討会等開催し多数の方へ参加していただきレベルアップを図りたいと考えます。